

B級気まま旅日記

—北海道編— 函館（その2）

日出彦

〔再び言い訳の弁〕

前回は締め切りに急かされて写真を添付するのを忘れてしまった。というよりも、買い換えた携帯電話の古い方に画像が残されていたのと、「写るんです」で撮った写真をすっかり忘れていたため、前者は「携帯電話 10」で画像を掃き出し、後者は脱稿後に気付いて現像に出したので、今回は写真入りである。と威張れた内容の写真ではないが、ご容赦を。



〔函館駅〕 〔湯の川温泉ホテル近く〕 〔函館山夜景〕



[五稜郭公園] 1.6倍の高さの第2タワーが2006年に建つらしい。

近くのマンホールの蓋



[北海道立函館美術館]

五稜郭タワーでいささかがっかりしてしまい、あまり期待せずに立ち寄った。五稜郭タワーと指呼の先にある。こぢんまりとした如何にも地方の博物館だが、内容はよかった。



「リートフェルトの色とかたち」という特別展をやっていた。オランダ人のリートフェルトは赤、青、黄、黒、白しか使わないストレートな造形で有名である。会場では赤と青の椅子のレプリカ作りに子供たちが励んでいて、その他にシュロイダー邸のビデオを流していて遊び心一杯の造作に暫し年を忘れた。ここでは同時にブルーナのうさぎミッフィー展も行なわれていた。特別展は入場料 600 円であるが、五稜郭タワーの 630 円よりは **valuable** である。その他の展示は別に 150 円で鑑賞できる。常設展では道南の美術ザ・ベストテンをやっていて主に日本画の展示であった。鴎亭記念室では日本の書ザ・ベストテンをやっていた。金子鴎亭の大書などが展示してある。この人については全く知らなかったが、松前町出身の書家のような。一回りしても 1 時間程度なので、売店・喫茶コーナーに寄ろう。お客が少ないので、コーヒーと菓子注文してゆっくり美術書を眺めるのも一驚である。小生は浮世絵全集を 2 巻鑑賞し終わった。

[北洋資料館]



函館美術館に隣接した建物の 1 階にある、ささやかな資料館だが、中は結構楽しめた。漁船の航海をシミュレートしている揺れる部屋や、巨大な熊の皮やごちゃごちゃと一杯あ

る。館内の職員が親切で付いて来てくれ、揺れる部屋では荷物を預かってくれる。これで大人 100 円は如何にも安い。

[函館ビヤホール]



五稜郭公園駅で市電に乗り十字街で降りた。向かって左側を行くと海岸へ出る。昨夜函館夜景を見物したロープウェイとは逆方向である。また九十九ラーメンは赤レンガの金森倉庫の敷地内にある。赤レンガは横浜にもあるが、似たようなもので倉庫内部は小樽運河の倉庫店と同じような小物を売っている。発祥は森洋物店であったという。『』は曲尺の意味で金森になった。だからかもしれないが、洋食器のエリアが広い。ウインドウショッピングをしながら、倉庫の奥にある函館ビヤホールに辿り着いた。ここは天井が高く煉瓦の壁に囲まれ窓が小さく昼なお暗い。昼食時で混んでいたが、待つほどではない。いかバターの鉄板焼、骨付きラムの黒こしょう焼、函館開拓ビール（ピルスナー）及び函館赤レンガビール（エール）を注文した。一寸カロリーの取りすぎである。エールは結構コクがあった。外に出ると眼底検査の後のように太陽が眩しく、1 時間ほどはもとに戻らなかった。

[外人墓地]

函館の足は市電、路線バス、タクシーのいずれかであるが、市電がとても便利である。一日乗り放題の 1 日乗車券 600 円が使える。湯の川から五稜郭公園、函館駅前を經由して十字街に到る。ここで函館どつく前行きと谷地頭行きに分かれる。Y 字型をした路線である。

さて、函館どつく前で市電を降り、だらだらの登り道をゆく。15 分ほどで高龍寺が左手に見える。さらに、行くこと 15 分でロシア人外人墓地に出た。よく晴れた午後で暑い。水の供給を頻繁に行う。隣には「函館中華山荘」という中国人墓地もある。始め山荘というので中国人のゲストハウスかと思った。この高台からの海の見晴らしは雑草に遮られながらも良好である。墓地の様子は横浜育ちの者には見慣れたものであり、特に感慨はない。というよりも写真に撮ると霊が付いて来るので敬遠した。

帰途は高龍寺まで下ってから右手に折れて旧ロシア領事館跡、旧イギリス領事館跡を訪問する。前者は外観のみで中に入れず、訪れる人もほとんどいない。(自分しかいなかった。) 後者は中が開放されていて観光客も多い。元町公園を経てロープウェイ山麓駅に出て、十字街に戻る。ここから北方民族資料館へ滑り込みセーフ。ここの展示物も我々にはカルチャーショックだ。アイヌ民族のあの伝統的な文様は何と 21 世紀的であろうか。ここも来てよかったスポットである。

高龍寺だと思おう？



外人墓地の小路からみた海



旧ロシア領事館



[花火大会]

この夕べは洋上花火大会があるというので、海鮮市場で早々に夕食「三色丼」をとって、倉庫街に向かう。この日は普段人を入れない海辺の倉庫の敷地内に人を入れ、小生も海と向かい合うベストの位置に腰を据えた。7時半を過ぎると続々と浴衣姿の娘さんが集まってきた。ドーンと一発だけ花火が上がると、あちこちで歓声が上がる。隅田川とか横浜港とか大きな花火大会と違って、始まると打ち上げっぱなしというのではなく、洋上 2 箇所打ち上げるのであるが、一方のイベントが終わると、直ぐに他方ではなく待ち時間がある。花火の打上間隔が間歇的であり、みなそれぞれ次の仕込まで 10 分ずつ位待っている状況。



今回は花火で締めくくる。次回はその夜泊まったホテルかもめを出て、いよいよ富良野に向かうことになります。